

いろいろな  
繊維と  
私たちの  
暮らし

# 綿・麻

## 天然繊維のうち植物繊維

中林 敦 Nakabayashi Atsushi 一般財団法人ポーケン品質評価機構  
主な業務は繊維製品を中心とした品質試験の涉外担当。繊維製品品質管理士

衣料用に使用されている繊維は、大きく分けると「天然繊維」と「化学繊維」の2つに大別されます。

天然繊維とは、自然界の動植物より採取されたもので、植物性の繊維は「綿」と「麻」、動物性の繊維は「毛」と「絹」、この4種類が代表的な天然繊維と呼ばれます。

今回は天然繊維のうち、植物繊維の綿と麻について、特徴や家庭で扱う場合の注意点をできるだけ分かりやすく解説します。

### 綿について

綿はアオイ科ワタ属の植物の総称です。写真のような花が咲きます。

植物は花が咲き受粉されると、めしべの子房が膨らみ実になり、実には種子ができます。綿もこの花がしぼむと実ができます。この実が熟し、乾燥して割れると中からコットンボールと呼ばれる白い柔らかい種子毛繊維が現れます。



綿の花



コットンボールを付けた綿の木と、コットンボール

### 綿の特徴

#### 主な長所

- ・繊維に天然の撚りがあり糸にしやすい
- ・肌触りがよい
- ・吸水性に富み、洗濯に強い
- ・熱に強い

#### 主な短所

- ・しわになりやすい
- ・水分により収縮しやすい

### 麻について

麻は植物に含まれる繊維の総称であり、リネン(亜麻)、ラミー(苧麻)、ジュート(黄麻)、ヘンプ(大麻)、マニラ麻、サイザル麻などの多くの種類があります(図)。繊維製品の品質表示で「麻」と表示できるのは、リネン(亜麻)とラミー(苧麻)

のみです。それ以外の麻は「植物繊維」と表示されます。

麻は茎または幹の表皮の内側の柔らかい繊維質(韌皮部)を採取する韌皮繊維、葉部から採

図 麻の種類

リネン(亜麻)	ラミー(苧麻)	ジュート(黄麻)	ヘンプ(大麻)	マニラ麻	サイザル麻

る葉脈繊維に大別されます。衣料用の麻(リネン、ラミー)は比較的柔らかい靱皮繊維です。

### ●麻の特徴

麻の衣料品は爽やかな涼感があり、夏用製品の素材に多く利用されています。

#### 主な長所

- ・剛性で、汗ばんでも肌に付きにくい
- ・通気性に優れており、水分の吸収発散がよい
- ・熱伝導率、放熱性が大きい
- ・天然繊維の中で最も強<sup>ごうりき</sup>力があり、水に濡れるとその強さが一段と増す

#### 主な短所

- ・繊維が硬く、ちくちく感じる場合がある
- ・しわになりやすい(魅力にもなる)

## 取り扱い方法 家庭で洗濯する場合の注意点

繊維製品を購入する際、消費者にとって衣料品の色柄やデザイン、価格、さらに縫製の出来栄えはもちろんのこと、日常生活での取り扱いや着心地にかかわってくる組成繊維や洗濯・ドライクリーニングなどの取り扱い方法などについての情報も重要です。

したがって商品には、消費者が商品を買う際に最も目的に合ったものを上手に選ぶための手引きと、適切な使い方をするための情報となる表示を正しく行うことが法律で義務づけられています。

### ●繊維の組成表示について

今回のテーマである植物繊維の名称を原材料として表示するときは、次の「指定用語」が使用されています。

#### 綿

綿、コットン、COTTON

#### 麻

麻、亜麻、リネン、苧麻、ラミー

#### 上記以外の植物繊維

上記の麻の種類以外の麻、および綿以外の植物繊維については次のように表示します。

植物繊維(〇〇)

( )内は繊維の名称を示す用語または商標

#### 表示例

植物繊維(ヘンプ)、植物繊維(ジュート)、  
植物繊維(ケナフ)、植物繊維(カポック)など

### ●取り扱い方法(洗濯表示)

繊維製品の取り扱い方法については、「JIS 取り扱い(絵)表示記号(以下、取扱表示)」を用いて製品一つ一つに適切に設定されています。

#### 家庭洗濯

洗濯、漂白、乾燥、アイロン仕上げ

#### 商業クリーニング

ドライクリーニング、ウェットクリーニング

#### 付記用語等の表示

また、洗濯表示記号で表すことのできない取り扱い方法に関する情報は、必要に応じて、記号を並べて表示した近くに、付記用語や文章で表示されています(事業者の任意表示)。

#### 付記用語等の例

「洗濯ネット使用」「裏返しにして洗う」  
「弱く絞る」「アイロンはあて布使用」  
「飾り部分アイロン禁止」 など

綿の特徴として熱に強い点が挙げられますが、綿素材のすべての商品が高温アイロン表示となっているわけではありません。実際の商品には、起毛、プリントなどの二次加工、また熱に弱い繊維と併用されて製品が構成されているなどいろいろなケースがあります。

一番重要なのは、取扱表示に従った適切な取り扱いを行うことです。そのうえで、綿、麻素材を家庭で扱う場合の注意点は次のとおりです。

- ・湿った状態や、着用中の摩擦によりほかの物に移染するおそれがあるので、注意する
- ・色移りした場合は、速やかに洗濯する
- ・淡い色との重ね着には注意する
- ・水道水中の塩素により変色するおそれがあるので、流水すすぎは避け、ためすすぎにする
- ・麻は強くこすると毛羽立ちによる白化や変色することがある

適切な取り扱いを理解することで、衣料品を長持ちさせる参考となれば幸いです。